設楽発掘通信

No.20
平成２８年
７月号

滝瀬遺跡の地元説明会を開催します。

今年度も五月より滝瀬遺跡の調査を開始しました。昨年度は縄文時代早期から中期中葉（今から九千年前～五千五百年頃）の炉跡を含む集石遺構群のほか、中期から後期（今から四千五百年前頃）と思われる竪穴建物跡、後期の土坑（今から四千年前頃）などが見つかり、集落の様子がしだいに明らかとなってきました。

今年度は、これまでに縄文時代中期から後期（今から四千五百年前頃）の石囲炉をもつ竪穴建物跡一棟と土器埋設遺構などが確認されたほか、縄文時代後期前葉から中葉（今から四千年前～三千八百年前頃）を中心に、多数の縄文土器・石器が続々と出土しています。

つきましては、下記の通り八月十一日（木・祝）の午前十一時より、地元説明会を開催することとなりましたので、ご案内します。どうぞよろしくお願いします。

清流の川縁に居を構えた縄文時代人の暮らしぶりを、ぜひとも現地にてご覧下さい。

（愛知県埋蔵文化財センター　武部真木）

滝瀬遺跡地元説明会 会場のご案内

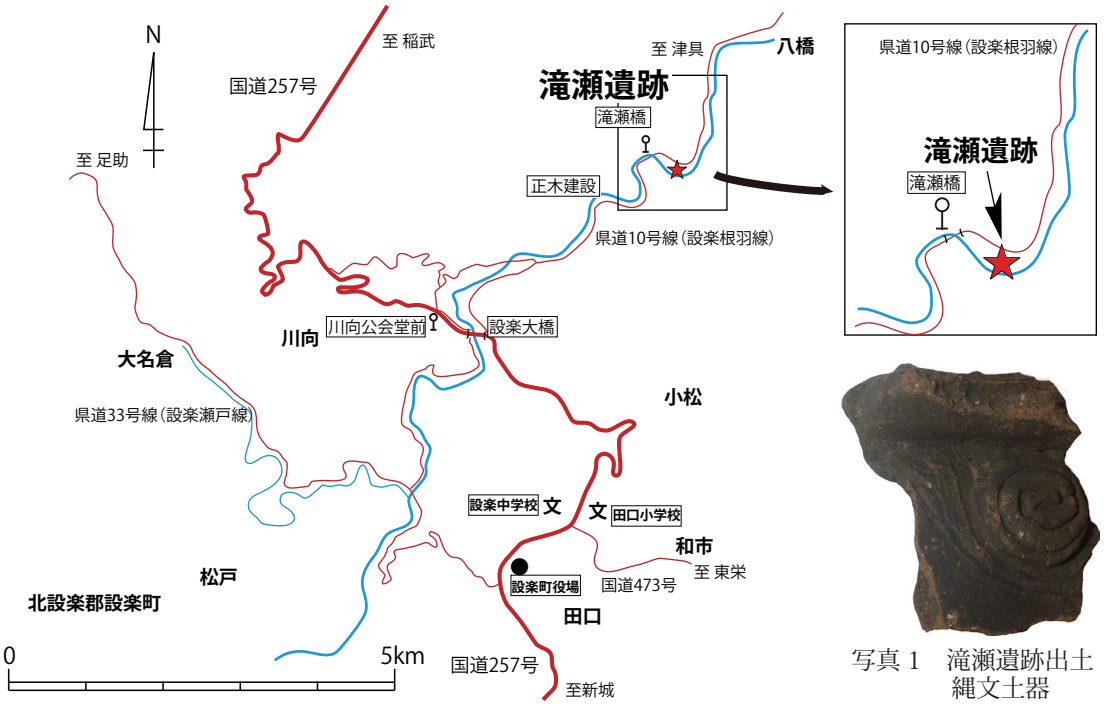

写真１　滝瀬遺跡出土縄文土器

８月１１日（木）午前１１時から、発掘現場で開催予定です。
当日お車でご来場の際には、遺跡に近接する駐車場にて係員がご案内いたします。
＊開催の詳細・お問い合わせは、愛知県埋蔵文化財センター調査課（電話 0567-67-4163）、川添和暁（080-1571-4989）、あるいはホームページ（http://www.maibun.com）をご覧下さい。

滝瀬遺跡の発掘調査

滝瀬遺跡は調査区を大きく2つに分け、東側をA区、西側をB区として調査を行っています。現在はA区の調査が中心で、様子が次第に明らかとなってきました。また、B区も表土掘削（表面の土を重機で掘削すること）を行っており、順次調査を行っていく予定です。

A区では竪穴建物跡など重要な遺構と考えられるものがいくつか見つかっています。まだはっきりとは性格の分からないものもありますが、居住域がある程度広がっている可能性が高いことが分かってきました。遺物は土器や石器などが出土しています。詳細な時期はこれから検討することになりますが、縄文時代後期（今から約四千四百年前～三千八百年前）の遺物が多いようです。

今号ではA区南部で検出された竪穴建物跡を紹介したいと思います（写真2）。大きさは約四．三m×約四mで、形は南北にやや長い方形です。四隅には主柱穴（屋根を支えた柱の穴）と考えられる穴があり、壁の近くには複数の小さい穴が見られます。これらの穴も建物に関係する柱穴の可能性があります。また、中央からやや北寄りの位置には石囲炉（石を組んで作られた炉）があります。前年度の設楽地区内の調査でも、同様に石囲炉を伴う竪穴建物跡がいくつか見つかっており、おおむね縄文時代中期～後期（今から約五千年前～約三千八百年前）のものと考えられています。今回見つかった建物跡からはまだ明確な時期を示す遺物は出土していませんが、同様の時期である可能性があります。建物の床面には平たい石がいくつかみられますが、これらも人為的に置かれたものかもしれません。また、こうした石の下からは埋甕（建物入り口部分の床下に埋設された深鉢形土器）が発見される可能性もあります。

調査はまだ始まったばかりですので、今後の調査にも期待してください。

（安西工業株式会社　岩瀬大輔）

川向東貝津遺跡の発掘調査

川向東貝津遺跡では、現在、縄文時代草創期文化層（今から約一万二千年前）の調査が中心です。調査区全体に二メートル四方のグリッド（桝形）を設定し、グリッドごとに掘り下げを行っています（写真4）。今回は、特に貴重な出土遺物についてご紹介します。

有舌尖頭器（写真3）は縄文時代草創期特有の石器で溶結凝灰岩という石で作られています。石鏃（やじり）が狩りの道具の主流となる前の一時期に広く使用されました。柄に取り付けるための茎をもつ石器で手槍や投げ槍の穂先に取り付けて使用するのですが、出土した有舌尖頭器は長さ五．九cm、幅一．八cm、重さ六．二gで小型の部類に属するため、投げ槍の穂先に取り付けて使用したものと考えます。後期旧石器時代（今から約一万六千年前以前）の人々は、ナウマン象や野牛などを狩りの対象としていましたが、これらの大型獣は温暖化による自然環境の変化や人々による乱獲の結果、旧石器時代の終わり頃に相次いで絶滅してしまいました。これらに代わって繁殖した嗅覚が鋭く俊敏なニホンジカやイノシシなどの中型獣を捕獲するため縄文人たちはこれまでの手持ちの槍から有舌尖頭器を装着した投げ槍に変化したと考えられています。旧石器時代から縄文時代の石器へ移行する中で最も大きな変化は弓矢の発明です。機能的に優れた弓矢の普及はタヌキやウサギなどの小動物も狩猟の対象としました。その結果、投げ槍器による狩猟はほぼ消滅することとなります。

参考資料『石器時代の刺突具』栃木県埋蔵文化財センターロビー展示解説

（安西工業株式会社　坂口尚人）

範囲確認調査

小松地区のマサノ沢遺跡、八橋地区の永江沢遺跡、川向地区の大空前遺跡および南ケ岳遺跡の範囲確認調査が終わりました。マサノ沢遺跡では大量の土器・石器が出土する成果を得ることができました。

引き続き、川向地区で下延坂遺跡、川向近沢遺跡、上ヲロウ・下ヲロウ遺跡の範囲確認調査を行っています。

（安西工業株式会社　入江剛弘）

写真３　川向東貝津遺跡出土　有舌尖頭器

写真４　川向東貝津遺跡　石器出土状況（奥が北）

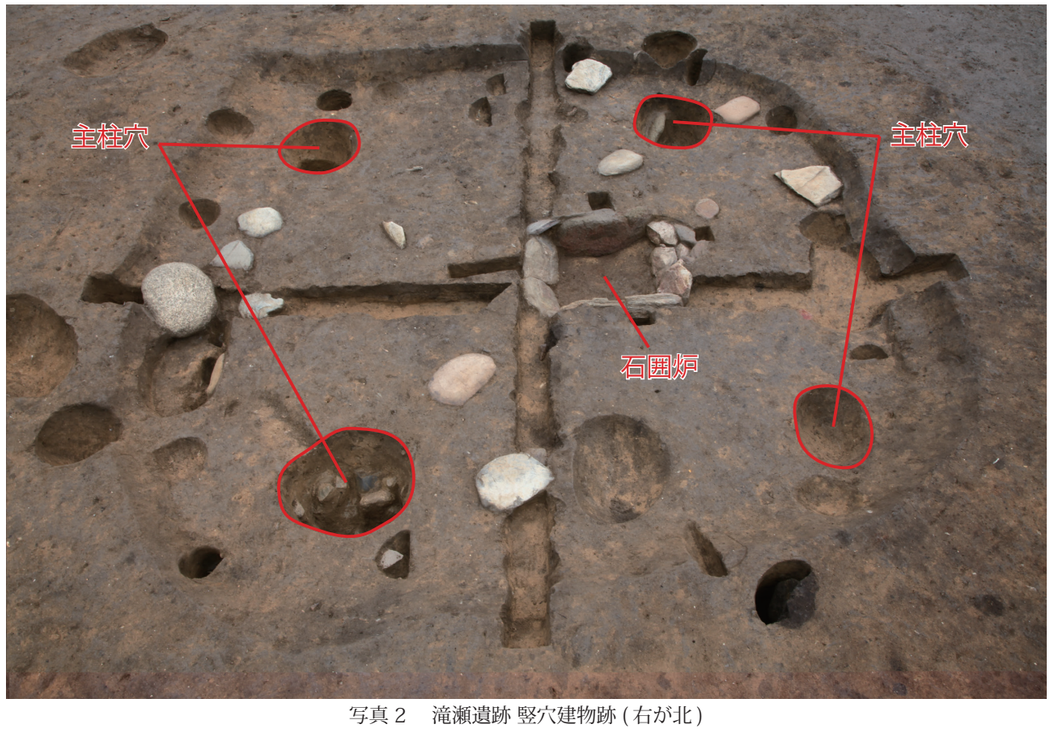

写真２　滝瀬遺跡 竪穴建物跡（右が北）

平成二十八年度範囲確認調査

昨年度に引き続き、五月より遺跡の範囲確認調査を行っております。今年度の調査予定は表1の通りです。対象遺跡は滝瀬遺跡以下十一遺跡（図1）、総計で調査面積は四五〇〇㎡、試掘トレンチの総数は約一二〇〇ヶ所です。調査対象遺跡の面積と状況によって、一遺跡当たり二六～二二九ヶ所のトレンチを入れる予定です。

範囲確認調査は遺跡の広がりを確認するものです。対象遺跡の面積などに応じて一定割合の面積を算出し、その面積相当分の試掘トレンチを、重機などを使用して掘りさげます（写真5）。これによって、遺構および遺物の有無を確認します。検出された遺構は写真と図面で記録します。遺物は層位ごとに記録し、取り上げます。また、トレンチの土層も写真と図面で記録します。この記録データは本調査に向けての資料として報告書にまとめられます。これまで、マサノ沢遺跡の調査で縄文時代の遺物と竪穴建物の石囲炉と推測される遺構が検出されました（写真6）。

今年十二月まで、縄文時代の遺跡として知られる大名倉遺跡などの調査も行っていきます。（愛知県埋蔵文化財センター　酒井俊彦）

表1　範囲確認調査対象遺跡
（平成28年6月現在）

遺跡名	試掘面積	トレンチ数	地区
滝瀬遺跡	332㎡	88	八橋
大空前遺跡	60㎡	26	川向
上ヲロウ・下ヲロウ遺跡	750㎡	229	川向
根道外遺跡	172㎡	86	八橋
永江沢遺跡	124㎡	62	八橋
大名倉遺跡	156㎡	78	大名倉
石原遺跡	730㎡	137	川向
下延坂遺跡	828㎡	130	川向
マサノ沢遺跡	364㎡	135	小松
川向近沢遺跡	500㎡	110	川向
胡桃窪遺跡	494㎡	182以上	大名倉
計	4500㎡	1274以上	

写真5　永江沢遺跡調査風景

写真6　マサノ沢遺跡石囲炉跡検出状況【左】、調査風景【右】

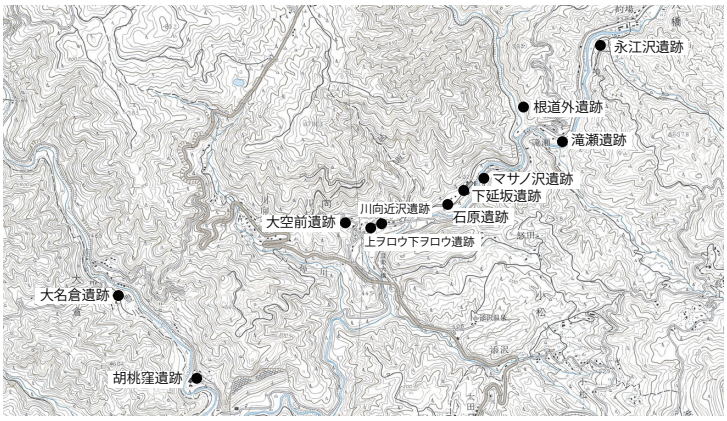

図1　範囲確認調査位置図（1:50,000）

設楽発掘通信
No.20
平成28年7月号
編集・発行　公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター
〒498-0017　愛知県弥富市前ヶ須町野方802の24
電話　（0567）67-4161【管理課】　4163【調査課】
ホームページ　http://www.maibun.com
Facebook　https://www.facebook.com/maibunaichi
Twitter　https://twitter.com/aichi_maibun
印刷・協力　安西工業株式会社